

岡村治男

東工大(機械物理)学士・修士。NTT 電気通信研究所(横須賀)、NEC 海底光ネットワークシステム事業部、および米国コーニング社の標準化部門を経て 2003 年 10 月(株)グローバルプランを設立。急速に進行中のデジタル革命から途上国の奥地を取り残さず、パンテミックにも備えるため、情報格差を迅速に解消するソリューション BIRD*を開発、ITU-T で国際標準を獲得し、その世界展開を進めている。

* BIRD; Broadband Infrastructure for Rural-Area Digitalization

IEC/SC86C/WG3(光増幅器)議長、ITU-T/SG15(光トランスポート)副議長、ITU-T・TSAG(テレコムアドバイザー)で ITU-T の作業プログラム、プログラム管理および戦略担当議長。東大非常勤講師、AIST(国立研究開発法人産業技術総合研究所)研究顧問、早稲田大学客員教授などを経て 2021 年 11 月現在、早稲田大学客員研究員、NICT(国立研究開発法人情報通信研究機構)外部評価委員、IECSC86C(光ファイバシステム・能動部品)国際議長、総務省情報通信審議会専門委員。工学博士、E-MBA。

(著書:いずれも分担執筆)

光増幅器とその応用

(英語版:アカデミックプレス、1994 年、第 13 章、日本語版:オーム社)、
光ファイバー計測および標準の傾向

(英語版:Kluwer Academic Pubs, 1995、第 7 章)
光通信・光メモリ用語辞典 コロナ社

(表彰)

NTT 社長表彰(海底光ケーブル技術の実用化:共同受賞)

IEC 活動推進会議議長特別賞(2001)、IEC1902 賞(2001)、ITU協会功績賞(2002)

情報通信技術賞(総務大臣表彰)(2014)、産業標準化事業表彰(経済産業大臣表彰)(2021)

(情報格差解消への国際標準化)

2014 年から情報格差解消のための国際標準を提案し Editor となり以下の勧告の出版に漕ぎつけた。

ITU-T L.1700(低価格化重視のコンセプト:2016)

ITU-T L.110(地表設置できる光ケーブル:2017)

ITU-T L.163(L.110 ケーブルの DIY 敷設法:2018)

<https://news.itu.int/new-standards-broadband-mount-everest/>



(情報格差解消のプロジェクト)

上記勧告に準拠した軽量・堅牢な光ケーブルを地表・地下・空中・水中に簡易に DIY 敷設できるソリューション BIRD につき、ネパール政府が「Okamura Model」としてエベレストベースキャンプとアンナプルナトレッキングルートに投入すると発表。

<https://www.thequint.com/news/world/nepal-free-wifi-mount-everest-basecamp>



ソリューション BIRD は 2019 年、ネパール西部、海拔 1300m の山村に 10 km 投入し。現在、正常に動作している。従来の光ケーブルを通常に敷設する場合に比べて約 80% のコストダウンができた(ケーブルコスト+敷設コスト)。ナムチェバザールからエベレストベースキャンプ間に敷設予定のソリューションは ITU-T 勧告 L.1700, L.110, L.163 に準拠しており、光ケーブル 42km は 2020 年 8 月にすでにエベレスト山麓に搬入し、2021 年 11 月現在、コロナ終息を待っている。